

2023年度の事業報告

2023年4月1日から2024年3月31日まで

一般社団法人エンパワメントサポートセンター

計画相談支援、生活介護の2つの事業を軌道に乗せ、「障がい者の人権を考える当事者の会 Future～みらい～」、「シッポファーレ仕事づくりクラブ」の2つの当事者団体の活動がより活発になるように努力した年度になりました。

主に以下の点に力を入れました。

① 新規メンバーの受け入れ

計画相談、生活介護ともに新しいメンバーの獲得・受け入れに努力しました。

高齢で亡くなられた方や他の事業所へ移籍された方などもいらっしゃいますが、立ち上げ当初は計画相談20名、生活介護11名だったメンバーが2023年度末は計画相談22名、生活介護12名と増えています。

② 敷居の低い柔軟な居場所作り

決まった時間通りの送迎ではなく個々のメンバーのニーズに合わせた柔軟な送迎をすることで通所をやすくしました。気の向いた時にフラッと立ち寄れる敷居の低い居場所になったと思います。

興味のある仕事やレクリエーションをオープンな会議で皆で話し合い取り入れることにより責任を持ってひろばを運営していく雰囲気が広がっています。これは Future の活動で皆で話し合いながら決めるスタイルを長く続けてきたことが大きく影響していると考えています。

洗濯や入浴設備の提供と支援、バランスの取れた手作りの昼食を300円で毎日作るなど生活の基礎を支える取り組みも行い意義のある居場所作りを目指しました。「お昼が食べられるから」「入浴ができるから」など目的を持って通所される方も増えました。

③ 十三市など地域バザーへの出店

毎月13日に行われる神津神社(ひろばから徒歩3分程度)での十三市など、地域のバザーに出店しおにぎりや豚汁、メンバーの手作りの作品や木工などを販売しています。売り上げは話し合いの上、平等に分配しメンバーの収入や次のバザーの仕入れに回したりしています。地域の方々に私たちの活動を知っていただくことや地域に貢献することができていると感じます。

④ ポスティングなど淀川区での新しい仕事の獲得

十三市などのつながりからポスティングの依頼を受けました。2024年度より毎月1回「ザ・淀

川」という地域コミュニティ誌を配布するお仕事を請け負いメンバーとスタッフで協力しながら行うこととなりました。

③④の仕事は主にシッポファールで請け負い、働きたいメンバーとスタッフの民主的な話し合いの中で決めながら働いています。

【課題】

2023年度の終わりに厚生労働省より2024年度報酬改定の内容が発表されました。計画相談については単価が上がり報酬アップが見込まれますが、生活介護については私たちが取り組んできた居場所作りとは真逆の方向に舵を切られました。問題点としては以下があると考えます。

① 敷居の低い柔軟な居場所を国は想定していない

2024年度新体系では長時間(7時間以上)に渡って生活介護を利用しなければ現行と同程度の報酬を得るのは難しくなります。長時間利用を好むメンバーもいますが、障がいの状況によっては7時間以上の利用を求めること自体に無理があります。国の想定する障がい者像は画一的で個別のニーズを無視したものと云わざるを得ません。

② 利用者への工賃の額による報酬の差

コロナをきっかけに様々な企業が倒産を回避する対策として福祉に参入するようになりました。利用者として迎え入れた障がい者を安い労働力として使い、国からの報酬も得ることで倒産しない会社を目指す一般企業が増えました。今回の報酬改定は、そうした企業の参入をある程度しにくくするかもしれませんが、地道に障がい者の支援に取り組んできた小規模の事業所を工賃(利用者への給料のようなもの)の高い低いという資本主義の理屈でつぶしてしまう危険性が大きいです。

【今後の取り組み】

現在、以下の対策と取組みを行っています。

① 夜間の食事提供

2024年4月以降、夕食会を週1~2回程度開き長時間利用の可能性を広げている。参加メンバーも増え利用の幅も広がっている。

② 次回の報酬改定(4年後の2028年度)に向けて

国の助成金に頼らない収入源の確保を2つの当事者団体と協力し議論を始めました。また、福祉分野だけでない収入源についても検討を始めています。